

温かみのある信頼・友情をはぐくむ道徳指導の工夫

～情報モラル的な問題を扱った資料による道徳の授業に、表現活動を取り入れて～

道徳班 新井 聡美 (小学校教諭)

◇研究の概要

本研究は、道徳の時間とのかかわりを明確にした情報モラルの指導計画を基に、既習の情報モラル的な問題を扱った読み物資料を意図的に取り入れた授業づくりを通して、情報化社会でも生かすことのできる温かみのある信頼・友情をはぐくむ道徳指導の工夫について研究したものである。授業づくりでは、キーシーンに表現する活動を取り入れて共感的に道徳的価値の自覚を深めていくことで道徳的実践意欲を高める活動を行った。

◇実践内容

現状と課題

- ・主体的な判断力・自尊感情・道徳性が養われていない傾向が顕著
- ・自己本位な考え方や言動から対人関係のトラブルが増加
- ・ネット上のいじめなど情報化社会の影の部分の問題が顕在化



手だて1
意図的なキーシーンの取り上げ

友達に信頼される言動をしよう。

全体構想図

目指す児童像

情報化社会においても生かすことのできる温かみのある信頼・友情をはぐくまれた児童

情報社会で適正な活動を行うための基本的な考え方と態度

相手の思いや願いを考えて、よりよく生きていこうとする意欲・態度



手だて2
キーシーンでの表現活動①
友情度曲線

計画作成・実践

道徳の時間

- ◆価値項目 2-(3) 友情・信頼
- ◆主題 「いい友達であるために大切なこと」
- ◆資料 「ひびけ! 心のハーモニー」「幸せコアラ」
- ・情報モラルにかかわる問題を取り上げた読み物教材活用
- ・情報モラル的価値と道徳的価値の自覚
- ・表現する活動による価値の自覚化

他教科等の実践
学級活動 「情報を発信するときの責任」「チェーンメールへの対処」

総合的な学習の時間 「掲示板を使うときに気をつけること」
日常的な指導

計画的な授業実践 『事例で学ぶNetモラル(広教)』視聴覚教材の活用

第5学年 情報モラル教育指導計画の作成 (文部科学省モデルカリキュラム対応チェックリスト利用)

情報モラル教育 (2領域5分野)
2領域:心を磨く・知恵を磨く
5分野:情報社会の倫理
・法の理解と遵守
・公共的なネットワーク社会の構築
・安全への配慮・情報セキュリティ

相手や多くの人に不安を与え迷惑をかけるから、安易に転送せずに勇気を持って止めよう。

信用を失うことにもなるんだ、気をつけよう。



手だて2
キーシーンでの表現活動②
気持ちバロメーター

◇成果と課題

○キーシーンに心の動きを視覚化する表現活動を取り入れることは、主人公の気持ちへの共感を容易にするため、道徳的価値の自覚化に有効であり、信頼を裏切らないようによりよく生きていこうとする意欲・態度につながる事が分かった。

○計画的な授業実践により、情報モラルの基礎的な既習知識は道徳の時間に資料を使って具体的に考えることで統合され、情報モラル的な問題に直面したときに、正しい判断を行い実行しようという態度につながっていくということが分かった。

●情報モラル的な問題を道徳の時間に扱う際に、問題への対処方法を踏まえた上で、生活指導に偏することなく、道徳的実践力が高められる中心発問の工夫をしていく必要がある。